資料２
令和５年５月１０日

南西部地域におけるデマンド型交通の考え方と今後について

１　検討経緯

・平成３０年７月から令和３年３月まで３つの実証実験運行を実施したが、いずれのルートも、当初の目標値を大きく下回り、地域の特性や道路交通事情等にコミュニティタクシーの運行システムが合致しない結果となった。

・令和３年度は、これまでの実証実験運行結果や取組等を分析・検証し、それに基づき「小平南西部地域コミュニィティタクシーを考える会」とともに、コミュニティタクシー以外の新たな交通手段や既存の公共交通機関の有効活用の研究を行った。

・令和４年度からは、「小平南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会」に名称を変更し、地域の実情やニーズに即した新たな交通手段として「デマンド型交通」に絞り、運行システム等について検討している。

２　コミュニティタクシー以外の交通手段としてのデマンド型交通

（１）地域の状況（実証実験運行の結果から見えてきたこと）

・南西部地域は東西に広いが、そこをつなぐ幹線道路が他の地域に比べて少なく、狭隘道路も多い。

・生活圏が玉川上水や鉄道で複数に分断されている。

・地域内の移動傾向として、鷹の台駅へ向かう動きだけではなく、市を跨いだ国分寺駅や立川駅、東大和市駅など複数の駅に向かっており、買い物や通院先など目的や行先が分散している。

（２）デマンド型交通に絞る理由（これまでの検討内容に基づく考え）

・コミュニティタクシーのような定時定路線での交通手段ではなく、柔軟に運行ルートや乗降場所が設定できる「路線不定期運行」または「区域運行」のような地域に合致している形態が必要である。

・人の動きが分散化していることから、よりきめ細かいニーズに即した交通手段が求められている。

・地域の特性やニーズを反映するためには、運行方式や運行ダイヤ、乗降場所などを柔軟に設定することが可能なデマンド型交通に絞り、実証実験運行を実施する必要がある。

３　デマンド型交通の実証実験運行に対する考え方や検討内容等

（１）実証実験運行の目的（これまでの検討内容を踏まえた共通認識）

地域ニーズに基づくコンパクトな地域内の生活交通の充実を図り、最寄り駅へのアクセスや買い物、通院など、市民の生活の足を確保することを目的に、コミュニティタクシー以外の新たな交通手段として、デマンド型交通に絞り、実証実験運行を実施する。

（２）持続可能な公共交通とするための視点

・実証実験運行から、継続的な運行へ移行するための判断基準や目標値の設定が必要である。

・市からの財政支援（運行経費への補助金）について、他の地域との公平性の観点も不可欠である。

（３）実証実験運行に向けた検討課題（市と考える会の考え方の擦り合わせ）

①利用対象者

公共交通としての役割や目的との兼ね合いを踏まえた対象者要件の設定有無の検討

②利用方法

運行（予約受付・配車）システムに応じた事前登録の有無や予約方法の検討

③運行エリア

運行エリアを２つに分けることを基本に、エリアを跨ぐ移動ニーズへの対応の検討

（鷹の台駅西側エリア⇔中央公民館、津田公民館・図書館の２か所程度）

④乗降場所

利用者待機中の安全面や効率的な運行を視野に入れた乗降場所の確認や整理

⑤運行曜日

車両１台で２つのエリアを分けて運行する際の曜日の調整

⑥運賃及び目標人数

利用見込みと運賃収入の適正な把握と継続運行へ移行する際の判断基準の検討

⑦運賃収入以外の収入の確保について

他の地域との公平性の観点から、市の補助金が過度な負担とならないよう広告収入などの確保を検討（デマンド型交通の性質上、利用者１人当たりの運行経費が高くなるため）

（４）実証実験運行に向けた準備

①考える会における取組

・運行システム等を地域へ周知し、理解していただくための周知・ＰＲの検討及び実施

・利用促進活動の検討及び実施

②市の役割や取組

・実証実験運行に係る予算の確保・調整

・運行事業者、警察署、国土交通省など関係機関等との調整

・運行システム選定に係る検討

・考える会と共通認識を図りながら、継続的な運行へ移行するための利用者数や市の補助金額などの判断基準についての検討

・「(仮称）小平市の地域公共交通の基本方針」との整合性